

おの100で学んだこと

私の長所は失敗を恐れずに挑戦し、失敗から学ぶことができることです。今は胸を張ってそう言うことができます。初めてのことなんて失敗して当たり前。挑戦しないと学びも新しい喜びも感じない。飛び込んで、そこで全力で頑張ってみることを私は大切にしています。

私は現在、和歌山県で小学校教諭として働いています。今回は私のおの100での学生時代を振り返り、その学びを書かせていただきます。学生として関わったのは3年間でしたが、本当に多くのことを学びました。挑戦することもその一つです。私が学生として関わった年は全て、挑戦の連続でした。

1年目の班付きサブとして関わった第16期。人との、子どもとの信頼関係を築くこと、笑顔でうなずいて話を聞くこと、自分から人に話しかけることは私にとって簡単なことではありませんでした。研修では緊張でドキドキしながら仲間に挨拶して、自分でもよく分からないまま意見を発表して、うまくできなかったなあと帰路で反省会をしました。こんな自分で本当に子どもたちの5日間を預かっていいのだろうか、いやいや今まで頑張ってきたのだから弱音を吐いたらダメだ。2つの気持ちの中で迎えた本番は、やっぱりうまくいかないことの方が多かったです。そんな時に力をくれたのは、子どもたちの歩調コールでした。普通に歩くだけでも大変な子どももいたのに、大きな声を出して限界への挑戦をしました。その姿を見て、子どもたちの力の大きさを感じました。ゴール後、「みんなは100kmを完歩したんだから多少のことなら大丈夫、自信をもって！」と声をかけました。それと同時に、「私も100kmを全力で歩ききったんだよな。うまくいかないことも多かったけれど、今の自分にできることを自分なりに頑張ることができたぞ。」と思いました。

2年目のSNリーダーも、やってみてうまくいかないから次はこうしよう、3年目のリスクヘッジ室室長も今度はこんな風に声かけてみようとか次の一手をよく考えるようになりました。周りとは比べるとできないことばかりだと思ってしまったけれど、昨日の自分と比べると同じ失敗はないようによく考えて頑張っていると思いました。そして、昨日の自分よりも成長しているならそれでいいと思います。

このように、挑戦して失敗して次を考えていくことで、失敗してもこれから良くなるチャンスをもたらすと前向きにとらえることができるようになりました。一生懸命頑張ろうとしている自分を少しだけ好きになることができました。こうして頑張ることができたのは、隣で一緒に頑張っている仲間がいて、この人達のために頑張りたいと思える仲間や夏に歩きに来てくれる子どもたちがいたからです。たくさんの人におの100を通して出会いました。出会えたこと自体が奇跡で、宝物だと思っています。これからも小学校で働く中でたくさんの人に出会うだろうし、挑戦と失敗の場があると思います。一人一人との出会いを大切に、人を謙虚に受け止め、できるかどうかはやってみなくてはわからないという挑戦の心持ちで進んでいきます。